

令和4年度 事業計画書

公益財団法人 シルバーランド振興事業団

1 施設の管理・運営についての基本方針と施策

大田市から管理・運営を委託された「仁摩サンドミュージアム」と「ふれあい交流館」等の公共施設の適正な維持・管理、運営を行い、公的な文化・観光施設として県内外へのサービスの提供、情報発信等に努め集客力を高めるとともに、地域住民にとっても憩いや集い、活力の場を創出する施設をめざします。

よって、公共性の確保と同時に収益性の追及を行い、総合的・将来的な視点からバランスに配慮した運営に取り組みます。

また、施設の管理・運営にあたっては、以下にあげる基本方針のもとに施設運営を行います。

- (1) 今年度も新型コロナウイルス感染症の動向に左右される事案も多々発生することが十分想定されるが、公益財団法人日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った感染症予防対策、また島根県等の指針に基づいた感染防止対策を徹底し、安心して来館頂けるように営業して行きます。
- (2) 公共施設として観光客や令和4年1月29日開業した道の駅ごいせ仁摩、大田市観光協会、銀の道商工会などの外部団体、また地域住民等から広くニーズの把握等の情報収集に努めます。また、家族あるいは世代を超え老若男女が楽しむことができ、県内外からの集客力もあり、採算性の高い「テーマ性」を持った「鑑賞型」、「体験型」の企画展等の開催を行います。

来館者に興味や関心を持たせるワークショップ等の「実演・体験型」、「学習・啓発型」コーナーのいっそうの充実を図り、近隣観光施設や地域の諸団体と連携したイベント等の開催を積極的に行います。

山陰高速道沿線活性化に絡めより一層インスタ映えにも注力し館内外及び周辺エリアの充実・改善にいっそう努め、来館者がこのエリアに足を踏み入れた瞬間から、期待感や安らぎ・癒し、充足感を享受できる空間・環境づくりに努め、再訪性や滞留性を高めリピーター

やインバウンドを含めた新たな観光客の誘致に努めます。

- (3) 施設の情報にあわせ、令和2年日本遺産に認定された「石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀の山”と出逢える旅へ」に関連した地域の優れた文化・芸術・自然・歴史を来館者を始め県内外に積極的に発信するとともに、地域住民の誇りや生きがいの醸成につながる諸活動を展開し、生活意欲の向上や地域経済の活性化に貢献できる取組を推進します。

山陰高速道路延伸にともない令和4年1月に開業したごいせ仁摩（道の駅）、サンドミュージアム、琴ヶ浜一帯を結び、来訪者のみならず地域住民にも親しまれ集うことができる拠点としての施設づくりを推進します。

- (4) 大田市版DMOに絡め、大田市観光協会を核とし世界遺産「石見銀山」エリア内にある石見銀山世界遺産センターやその他の施設や団体また、国立公園三瓶山にある三瓶自然館サヒメル、国立三瓶青少年交流の家等との受入連携体制等の整備を図り、仁摩サンドミュージアムも日本遺産関連の中の一つのモデルコースとして組み込んだ旅行商品を修学旅行や校外学習での学校関係や旅行業者への営業推進や大田市が取り組む観光振興のための話題性・独自性に富んだ運営・PRを推進し、全国へのメッセージを発信する文化・観光施設づくりに努めます。

- (5) サンドミュージアムの砂時計と鳴り砂の浜「琴ヶ浜」のいっそうの知名度アップを図り、「時」・「砂」・「環境」等のテーマ性のある企画展を開催し、「世界一の砂時計」をシンボルとした「砂博物館」として来館者数の増加をめざします。

- (6) 2017年10月「国の天然記念物」に指定された琴ヶ浜の鳴り砂の保全活動や、自然との共生、環境保全・保存をめざす地域住民団体や関係諸機関とのネットワークづくりを行い、地域住民の意識啓発につながる企画展や、諸活動に取り組みます。

また、県外からの来訪者を中心に、当地の温泉を含むこの地域の観光資源や滞留性を誘

導するラインづくりと、ごいせ仁摩(道の駅)と共に仁摩地域の拠点施設となることをめざします。

2 具体的な施策

2021年から4度目(計21年間)の指定管理者として、仁摩サンドミュージアムの管理・運営を大田市から委託されております。

令和4年度の管理・運営にあたっては、新型コロナウイルスの感染症の動向が今年度も影響してくると思われるが、ワクチン接種や経口薬の開発も進んできており国や島根県からの指針に基づいた感染症対策や公益財団法人日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に取り組みながらインバウンドを含めた観光客等を松江城や足立美術館、出雲大社といった島根県東部から大田市へ誘客すべく市内近隣施設との連携を強化、また令和3年度に続き県内小中学校等への修学旅行や遠足、校外学習での利用においても大田市観光協会や近隣施設と協力し、引続き当ミュージアムの公共施設としての存在意義や果たすべき役割の質的向上をめざすとともに、公益財団経営の安定化を図ることができるように、民間的感觉や斬新な企画も取り入れた経営に努めてまいります。

(1) 企画展やコンサートを含めたイベント、また施設(隣接の健康公園含む)を活用したインスタ映え等の情報発信に努め、仁摩サンドミュージアムの存在意義や話題性をアピールすることで、リピーターの更なる確保に努めるとともに地域の文化・歴史・自然に関する研究・活動成果や芸術・音楽・伝承芸能の発表の場として、また、ブライダル写真撮影会場等として施設の利用を促進します。

- 春・夏・秋の企画展・冬期の地域密着展など
- 高校生・大学生、県内の芸術家などへ企画展の呼びかけ
- デザートギャラリーへの作品の展示
- 鳴り砂保護協賛コンサートやクリスマスコンサートなど
- ブライダル写真ツアー企画
- ミュージアム施設のインスタ映え写真の発信

- 仁摩でお花見（桜イルミネーション）へ参加協力
- (2) HPによる迅速な情報提供等に努め、集客増につなげます。
- 職員がHPのブログを毎日更新するとともに、情報の迅速な提供等により、リアルタイムに仁摩サンドミュージアムのイベントや企画展等を紹介
 - Facebook や Instagram による情報発信
 - 電子メディア、雑誌・新聞等への宣伝広告による集客の促進
 - マスメディア等への情報提供による広報活動
 - リピーターに対する年間パスポート（R.4.1.31 現在137人）の発行
 - インバウンド対応のための、パンフレットや表示の作製
 - Wi-Fi の活用について
 - 自動翻訳機の活用
- (3) ギャラリーにおいて砂の魅力を紹介することにより、滞留時間の増大や環境保護への関心度を高めます。また、琴ヶ浜の清掃活動に取り組むことにより、砂浜の環境保全についての機運を醸成します。
- 砂絵の図柄（しおりを含め17種類）を季節ごとに替えるなど、砂絵体験コーナーに変化を持たせる
 - 砂のオブジェなどの定期的なメンテナンス
 - 鳴り砂や海浜の調査資料を収集し、「砂」に関する資料を展示
 - 専門家を招聘し、学術面からの指導や小中学生への環境教育を依頼
 - 地元自治会や大田市観光協会、小・中・高等学校や近隣の事業所等と連携した琴ヶ浜の清掃活動の実施
 - 琴ヶ浜の清掃を伴う「琴ヶ浜サンセットライブ」への協賛及び出店参加
 - 専門家等も参画する琴ヶ浜保全委員会への参加
- (4) 地域住民へのサービス提供等により、地域の公共施設としてアピールしていきます。

- 結婚式・パーティー・コンサート等の会場利用の促進
 - 地元イベント「ごいせ祭」、まちづくり委員会等への協力
 - 地域密着展など地域住民が入館料の減免等により利用しやすい施設づくり
 - 地元大田市内アーティストを中心とした地域密着展の開催
- (5) 周辺観光施設等（石見銀山世界遺産センター、三瓶自然館サヒメル、三瓶青少年交流の家、島根おおだ健康ビューロー、三瓶こもれびの広場木工館等以下チーム大田と表記）との連携による情報交換や PR 活動及び地元小学生の作品展示や体験教室等の実施により来館者数の増を促進します。
- チーム大田でイベント等に参加し共同作成のパンフレットの配布や PR 活動の実施
 - 三瓶青少年交流の家と連携した体験教室等の実施
 - 三瓶こもれびの広場木工館と連携した地元小学生の作品展示
 - 企画展チラシ等の相互設置
 - しまねミュージアム協議会及び大田市観光協会等と連携した研修や、キャラバンでの他県旅行者等への PR 活動
 - 大田西中学校・邇摩高校生が行う職場体験学習への協力
 - 道の駅との情報交換
- (6) ふれあい交流館の販売及びガラス工芸体験教室の利用による顧客数の増を促進します。
- 各種ガラス工芸品（自前製作品を含む）の販売及び、HP を活用した販売
 - 地元販売業者の協力によるお土産（菓子）の販売と開発
 - 邇摩高校と連携したミュージアムオリジナル製品の販売
 - ガラス工芸体験教室のHP を活用した PR の推進
 - 出張ガラス工芸体験教室（大田市内各まちづくりセンター等）の開催
 - ガラス工芸体験教室のメニューの開発と地元産品活用を推進

3 その他特記事項

公益法人制度改革に伴い、平成25年4月1日から「公益財団法人シルバーランド振興事業

団」として新たなスタートを切りましたが、9年目を迎えることになりました。

定款にある「大田市が有する貴重な資源である鳴り砂を核として、砂にちなんだ文化の調査研究、地域間交流、産業振興等を行い、もって個性的な地域文化を創造し、地域社会の文化的・経済的振興を図る。」ことを目的とする事業を未来への展望を基に展開していきます。